

苫小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苫小牧市教育委員会 第 13 回 定例委員会
日 時	令和7年12月19日 自 15時00分 至 15時36分
場 所	第二庁舎2階北会議室
出席委員	教 育 長 山 本 俊 介 委 員 佐 藤 郁 子 委 員 齋 藤 智 子 委 員 岡 田 秀 樹 委 員 高 橋 憲 司
欠 席 委 員	
会議録署名委員	高 橋 憲 司 委員
会議録作成職員	総務企画課主任主事 飯 塚 菜 摘
事務局職員	教 育 部 長 園 田 透 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 参 事 東 峰 秀 樹 教 育 部 参 事 荒 関 基 高 生涯学習課主任主事 戸 澤 陽 子 総 務 企 画 課 長 下 濱 辰 哉 総 務 企 画 課 主 査 岡 崎 一 樹 総 務 企 画 課 主 事 小 坂 沙 羅
会 議 案 件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（山本教育長）・・・15時00分
2 会議録署名委員の指名（高橋 憲司 委員）
3 会議録の承認
（山本教育長） 第12回定例教育委員会（令和7年11月21日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
（一同「はい」の声）
－会議録どおり承認－
4 教育長の報告
（山本教育長） それでは、11月21日開催の第12回定例教育委員会以降の主な動きなどについて報告をさせていただきます。
はじめに、12月8日23時15分に青森県東方沖を震源とする地震が発生し、
徐々に大きな地震でございました。苫小牧市は震度5弱、津波注意報という状況でしたが、今回は津波注意報ということで各学校に避難所は開設しないという対応となりました。今回の地震により、明倫中学校で水道管破損による漏水と電気設備の故障、
植苗小中学校においてボイラー破損という被害があり、両校とも12月9日臨時休校の措置となりましたが、復旧作業も済み、翌日10日からは登校が再開されております。今回の地震により北海道・三陸沖後発地震注意情報が出され、16日0時には終了となりましたが、これまで以上に日頃からの備えが大切になりますので、12月

<p>17日の校長会議において、防災マニュアルの確認など、学校における災害対応の強化に努めていただきたい旨、話をいたしました。</p>
<p>11月25日、緑陵中の校内教育支援センター並びに凌雲中での金融教育を視察してまいりました。教育委員の皆様にもご同席いただき、ありがとうございました。委員の皆様も様々なご感想をお持ちと思いますが、校内教育支援センターについては、生徒の欠席日数が大きく改善され、効果が出ている状況をお聞きし、まだ不登校対策支援員が配置されていない学校にも可能な限り早期に配置する必要性を改めて認識したところです。また、金融機関による金融教育は、内容が予想以上にボリュームがあり、子供たちにとって、非常に有意義な時間であったと思います。</p>
<p>11月29日、令和7年度第49回苫小牧市中学生主張発表大会が開催され、佐藤委員とともに審査員を務めました。各校代表の15名の生徒が立派に発表をしておりました。家族や友人とのこと、環境問題やネット社会に関する課題、人としてのあり方や倫理観など、様々なテーマについて中学生らしい考えや感性で表現されていて、堂々と発表している姿を見ていますと何か頼もしくも感じました。閉会式では、相当の練習を積んできたことに対する労いと、大人になって発表原稿を読み返すと、また違った気付きや自分を見つめ直すよい機会になると思われるので、ぜひ実行していただきたい旨を挨拶いたしました。</p>
<p>12月2日、Web会議で胆振教育局による令和7年度胆振管内働き方改革推進会議及び働き方改革推進事業中間報告会が開催されました。会議では、働き方改革に関する取組事例の紹介やグループによる協議が行われましたが、今後市教委としての案の作成に活かしてまいりたいと思います。</p>
<p>次に、12月4日から12日までの会期で、第16回市議会定例会が開催されました。教育関係では9人の議員から一般質問があり、学校給食の無償化、北光小学校外壁の剥離事故、不登校対策、インクルーシブ・包摂的教育、学校給食のオーガニック食材と地産地消、学校規模適正化、小中学校へのエアコン設置、部活動地域展開と学校のセキュリティーといった質問項目でした。北光小学校の断熱材剥離については、</p>

建設工事への市の対応のあり方について質疑がされ、また、部活動と学校セキュリティーについては、特に吹奏楽の練習場所、楽器の保管場所がなくなることへの不安についての質問でした。部活動の地域展開において避けては通れない課題ですので、学校施設利用に関するルールなどを検討していく旨を答弁いたしました。そして、補正予算として明野小学校の真空式温水器の交換及び付帯工事費を提案し、無事可決されました。

また、文教経済委員会では、「環境障害に関する子供の学びの保障を求める陳情」が議題となりました。いわゆる電磁波障害・香害・化学物質過敏症などを抱える子供のため、苫小牧市に学校、もしくは特定の施設に環境障害の子供たちの学ぶ場をつくってほしいという内容でしたが、委員会審議の結果、不採択となりました。市教委の考えとして、子供たちの学びの保障については、一人ひとりの状況に合わせた支援が必要となると考えているが、環境障害の子供たちの生活や学びのために、学校や特定の施設を設置することは難しく、社会全体として取り組むべき問題であり、市教委としては今後も継続して、一人ひとりの状況に合わせた学びの保障に努めていく旨を説明しました。これまでも学校として出来る限りの配慮をしていると聞いておりますし、なかなか結論がみえない難しい問題だと感じています。市教委としても今後、環境障害に関する情報収集や対応策を考えていく必要性を認識しました。

生涯学習関係では、11月29日、第77回苫小牧市民文化祭表彰式が市民会館で行われ、教育長賞の授与とご挨拶お申し上げてきました。また、12月18日には科学センターへ苫小牧あすなろ会様からタッチモニターをご寄贈いただき、感謝状の贈呈をさせていただきました。また、明日20日からは、美術博物館において企画展である「苫小牧の美術史」と特別展示である「勇払原野の戦争遺跡」が始まります。多数の市民の皆様にご足を運んでいただければと考えております。

最後に、早いもので今年も残り2週間を切り、本日が年内最後の教育委員会でございます。4月の教育長就任以降、様々なことがありましたが、委員の皆様には多岐にわたりましてご指導、ご協力をいただき改めまして感謝を申し上げます。なお、各小

中学校は来週24日が終業式、来年1月14日が3学期の始業式となります。年が明けますと、新年度に向けた教育行政執行方針の策定、業務量管理・健康確保措置実施計画や学校規模適正化に関するビジョン案の策定と公表、様々な報道がされ、制度の詳細が今後示されると思われる小学校給食費の無償化など、我々市教委の動きも活発化してまいります。今年以上に委員の皆様のご協力をいただく場面も増していくと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。皆様におかれましても健康管理に充分留意され、よい年末年始をお過ごしください。少し早いですが、今年も大変お世話になりました。

私からの報告は以上でございますが、何かご質問等がございますか。

(一同「なし」の声)

5 議 案

(山本教育長) 本日は、審議する議案はございません。

6 報告・協議

報告(1) 校内教育支援センター運営事業実践事例集について

(教育部荒関参事) 一校内教育支援センター運営事業実践事例集について説明一

(山本教育長) 質疑に付します。何かございませんか。

(佐藤委員) 全体を通してのことですが、とても学校に合わせた準備をされているのがよくわかりました。ひとつ拝見しながら疑問に思ったのは、不登校ではない普通に通っている児童生徒さんはこのようなことを知っているのかということですね。

最後の質問のところもそうですが、居心地のよさから教室に戻れなくなるのではな

いかというご心配もあるように、そのギャップといいますか、ある意味、我慢しながら教室にいる児童生徒さんもいらっしゃると思いますが、学校に来られないことで居心地をよくして戻しましょう。でも戻すのが目的ではないと言いながら学校に行きやすいようにというような今の状態だと思いますが、その存在をほかの児童生徒は知っていて、どんなふうに思っているのだろうかというのが疑問として湧きましたので、お尋ねいたします。

(教育部荒関参事) ほかの児童生徒につきましては、校長が今年度、始業式の際にお話をしている学校もございますし、学校だより等で保護者へ周知しているというケースもございます。資料編のところに添付させていただいておりますが、北光小学校では、保護者の皆さまへということで、サポートルームに特化した資料を配布し、その内容ですとか、取組の中身について説明し、利用につなげているということで説明を受けております。

なお、12校回らせていただいたのですけれども、その中で子供たちの様子は、普通に学校に来ている子たちもサポートルームの役割を十分理解しているということで、利用している子供たちに対してサポート的な役割をしてくれている子供たちが非常に多いということで、現段階では特にサポートルームの運営について困っているというような声は聞いておりません。

(山本教育長) ほかにございませんか。

(高橋委員) 初めて見させていただいて、聞いているより本当に、子供たちが普通に利用している環境ができているのかなというのがありました。ほかの生徒さんたちも理解されていて、スムーズに運営されているのとあわせて、こちらに入っているデータ等を見ても、一定の評価ができるものなのかなと思っております。

ですがやっぱり今後のことも心配というか、経過を含めてなんですけれども、2ページにあるとおり、不登校児童生徒の推移がかなり右肩上がりであることを踏まえて、今後の利用がもちろん増えていくと思います。そこに関しても記載のとおり、実際に訪問されていない学校もこれから増えていく関係と、対応される指導員の方の人的な

不足ですとか、経験を踏まえた形での指導方法の確立というのがまだちょっと不明確な部分もあり、先生がご苦労されているのかが垣間見えました。また一方で、そこに携わる方々でそのような思いを持って接する方が実際どのくらいいらっしゃるのかというところがすごく心配なところになります。

もう一点は、中学校までは義務教育だからこういう形でやっていますけれども、高校は、このような形のものをやっていたらいいところが現時点であるのかないのかということと、学校へ行けない子たちがそういう形で対応しても結局は行けずじまいなので、社会に出るときに非常に格差を感じて困るだろうと思っています。そこに関して、お子さんの考えだとか、就職に関して何か問題点があるのであれば教えていただきたいと思います。

(教育部荒関参事) まず支援員の対応につきまして、12名の不登校対策支援員と面談させていただき、それぞれ抱えている困りごとがあるということは私どもも把握しているところでございます。支援員の資質の向上といったところを目指して、我々としましても年に複数回の研修会を実施しまして、今回お示ししました資料等を生かしながら、より適切な支援に結びつける情報提供を進めていきたいと思っております。

次に高校の対応ですが、申し訳ありません。高校にまでは、現段階では私どもも調査が入っていないのが実態でございますが、これまで本来ではないですが、教育支援センターで生活していた中学校3年生が、高校に進学後、やはり進学を機にそれぞれ目標を持って生活し始めたということを聞いております。公立高校の場合はなかなかそういった実態は見づらいのですが、私立高校はそういったところを非常に気づいてサポートをしてくださるところが最近増えてきているということもございまして、そういったところも含めて、今後、情報共有を進めてまいりたいと考えております。

(山本教育長) ほかにございませぬか。ないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(山本教育長) それでは、報告第1号の質疑を終結いたします。

報告(2) 学校における電子図書館の利活用について

(教育部斎藤次長) ー学校における電子図書館の利活用について説明ー

(山本教育長) 質疑に付します。何かございませんか。

(高橋委員) 読み放題パックが21パック導入というところで、そもそもパック自体がどのようなものなのかお聞きしたかったです。

(生涯学習課戸澤主任主事) 電子図書館にある書籍についてですが、1コンテンツにつき3人まで貸し出しできる通常のもので、このたび説明させていただいた、何人でも同時に入れる読み放題パックというのがございます。

このたび4月に、21パック全876点の購入をさせていただきました。文学であれば例えば「赤毛のアン」ですとかあさのあつこさんの「バッテリー」といった名作から、流行った本まで幅広く取り扱っています。また、自然科学につきましてはこちらの電子図書館のご案内というチラシのほうにありますとおり、例えば「世界のチョウ大図鑑」ですとか、世界遺産などの幅広い分野の、いわゆる図鑑のような本が収録されております。

(教育部斎藤次長) 文学とか自然科学とかそういう分野ごとにパックになっているということですね。

(生涯学習課戸澤主任主事) そうですね、すみません失礼しました。パックにつきましては、例えば「調べ学習 みんなが知りたいパック」ですとか、あと「学習資料パック20点」というような形で、テーマごとに購入させていただいております。

(高橋委員) ということは、分野別で1パックに何種類かまとまったものが入っているという感じのイメージで間違いないですか。それがパックだとすると、今900

冊ありましたということで理解していたら、逆に言うと1万1,000冊ぐらいまだ
パック状態になっていないので、3名しか使えないということによろしいですか。
(生涯学習課戸澤主任主事) はい、こちらにある1万2,000冊の本につきましては、電子図書館というのは学校に限ったものではございませんので、一般の方も、
高齢者から幼児まで見られるような本になっています。そのうち、パックとして購入
したものについては、主に小中学生向けのジャンルごとになっています。
(山本教育長) ほかにございませんか。
(高橋委員) 利用実績のうち、読み放題パックが2万968冊というところが貸し
出し数としてありますが、これは約900冊のパックを利用されている方が、要は登
録者トータルの数字として表しているという考え方でよろしいですね。
(生涯学習課戸澤主任主事) はい。そうです。
(山本教育長) ほかにございませんか。
(佐藤委員) 読書の習慣化に関わることですが、朝読書をどうするかというのが問
題というか注目を浴びた時期がありました。今どのくらい朝読書をしている学校があ
るか分かりませんが、朝読書にかける時間を節約する学校も増えていた時期もあった
と思います。朝読書は可能でしょうか。例えば、一斉にクラス全員で読むというよう
なことが可能なのかと思いました。
朝読書に関してはやめる学校の方が増えてきた時期もありまして、読書の習慣化と
反対の流れじゃないのかなってという話題性もあったと思いますが、朝読書で読んでい
くって、電子辞書、最近は縦書きの読み物も増えてきていますので、いろいろな形で
読んでいくといいと思いますが、朝読書を一斉にすることが可能だろうかというの
は、知りたいところでもございましたので伺いました。
(教育部斎藤次長) 朝読書をやっている学校、やっていない学校というのがいま手
元にはありませんが、実際に一時期、全部の学校でやったり、それがいろいろな事業
が始まって少し削られたりという状況がありました。
ただ、この電子図書館も、みんなで一斉に見られるので、朝の時間だとか授業のす

きま時間というのですが、テストを早く終わった人たちが図書室に行かなくても本を
読んでいられるというようなところで、非常に活用されているというふうに聞いてい
ます。

(佐藤委員) 読書の習慣化には非常に役立つということですね。

(教育部斎藤次長) その通りです。先ほどの朝読書について令和7年度ですが、朝
読書をしていない学校というのは、市内で3校ぐらいしかありません。あとは、週
1回だったり、2回だったりというのがありますが、どの学校もやっているような状
況です。

(山本教育長) ほかにございませんか。

(齋藤委員) ちょっと関連することで、図書のサービスというのは充実していて、
子供たちが気軽に本に触れられる機会ができてよかったなと思います。先程
おっしゃったように、授業の隙間時間に気軽に読めるようになったという話が本当に
よかったなと思いましたが、実際に本と触れ合う形式が変わってきたのかなという印
象もあります。

子供たちが図書館に行って紙の本に触れる回数というのもやはり少なくなってきて
いるのかなと思います。今までは図書館に行って自分の好きな本を迷いながら中身を
見て選ぶことができたと思います。ネガティブな意味ではなく、今の世代の子供たち
の様子がどのようになっているか教えていただきたいです。

(教育部東峰参事) 全ての学校の様子を把握しているわけではないですが、たまた
ま先日、授業視察に行った学校で、国語の授業で「日本語のおもしろさ」について調
べ、まとめるという学習を見ました。子供たちがどうやって調べようってなったとき
に、インターネット、図書、教科書など、いろいろなものを利用しようとする中で、
「図書館に行く」と言った子と、「電子図書もあるよね」って言った子がいました。

こうしたことから、子供たちの意識の中としては、数あるものの中の選択肢という
ことで、やはり自分が何を使って学習しやすいか、調べたいかというところを意識し
て学習していることをすごく感じました。今まさに自分たちで決めて、そして自分の

考えに基づいて学習を進めていく姿勢をとっておりました、子供たちも何かそういった力がついてきているのかなと思っておりますので、多くの学校で、そういった自分に合った方法を選択しているものにとらえております。

(山本教育長) ほかにございませんか。

(高橋委員) 3の利用実績で、ログイン数が小学校で1万2,883回に対して貸し出し数が2万3,351回となっており、2万弱という形でログイン数よりも貸し出し数が多いという状況です。例えば朝ログインして、使い終わりました。次にほかのものを調べたいのでまたログインしました、という場合もあり、ログイン数は逆に増えるような気がします、その辺はどういうことなのでしょう。

(生涯学習課戸澤主任主事) まとめて借りることもできますし、やはり何ページか読んで違う本に移るといったような読み方もあると思いますので、貸し出し数のほうが多くなったのではないかと推測します。

(高橋委員) 例えば1回のログインで2冊くらい一度に借りてみたいな感じですか。何回もログインをしたわけではなくて、それをカウントされているってことですね。

(生涯学習課戸澤主任主事) そうですね。1回のログインで何冊も借りる方もいますし、あとは何ページかだけ読むとか、絵本のような短いものもありますので、例えば朝読書の10分のうちに何冊か読むというようなこともあるかと思います。

(教育部斎藤次長) ログインして複数本を見てみた状態の統計になっているかなと思うので、このあともう少し慣れてくるのかなというような印象もあります。ちょっと様子を見たいと思っています。

(高橋委員) 1冊の本に関して、完全に読んだ冊数ではないという認識ですね。わかりました。

(山本教育長) ほかにございませんか。ないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

